

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2020年3月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

名古屋教区
了慶寺子ども会



仏弟子をえらばず みんなといっしょにしくなくても…

青少幼年センター幹事 ^{すぎ はら たかし} 杉原 隆

みんなが笑顔で挨拶する。靴を脱いだら揃える。本堂に入るときは頭礼する。学年順に整然と座る。赤本、念珠を忘れずに持って来る。正座し念仏する。お勤めは大きな声で丁寧に読む。読んでいる所が分からない人がいたら隣の人が教える。お話を最後まで静かに聞く。絵本の読み聞かせ、紙芝居・人形劇を観るときは、大いに喜怒哀楽する。ゲームを夢中になって楽しむ。クイズ・なぞなぞは、答えをすぐに当てない。お土産のお菓子をもらったら「ありがとう、これ大好き」と言う。忘れ物せず、ごみを落とさず境内を出る。でも、こんな子ども会ありえませんか。

あるとき、世話役のお母さんが、お勤め中に歩き回っていたA君に向かって、「ここは学校じゃないし、みんなといっしょにしないなら、もう来なくてもいいよ」と言われたことがありました。

子ども会が終わり、A君が帰るとき、私はそっと近づき伝えました。「ここはお寺だし、学校じゃないから、みんなといっしょにしくなくてもいいから、また来てね」と。

蓮ちゃん通信 その①

2020年6月22日(月)

「絵本ではじめる講習会」 を開催します!

絵本の選び方や、活用のアイデア、読み方
についての実践を学んでみませんか?
ご参加をお待ちしています♪

会場/しんらん交流館

定員/30名(先着順)

申込締切/6月15日(月)

講師/花田睦子氏
(絵本・児童書専門店「えほん館」店長)

申込方法/青少幼年センター(☎075-354-3440)
へご連絡ください。

※詳細は「真宗」3月、4月号をご覧ください。



『いのち』が全力投球してくれたんや

東京教区

にしお ともひろ
西尾 朋央

住職がまだ若かった頃に聞いたお話を、今日はみんなに聞いてもらおうと思います。

京都にある「東本願寺」では、毎年親鸞聖人の御命日に「報恩講」という法要が勤まります。その期間には近くの「高倉会館」という所で、お話を聞く会が催されていました。今から三十年以上前のその会で、ある養護施設の園長先生が、このようなお話をしてくれました。

養護施設の園長先生のお話

養護施設の子どもたちは母親への思いを語る時、よくこういうことを言っています。「母ちゃんに、お前なんか産むつもりなかった」と言われた」と、とっても辛そうな顔をして言っています。その時、僕は子どもに「ではお前は何か言った」と聞くと、「俺は頼んだわけじゃない」「頼みもしないのに産んどいて、何を言った」と。

僕はそれを聞きながらいつも思ういます。「そんな母ちゃんをして、お前を産ませた力が何処にあったんや。その力があつたらお前は生まれてき

たのではないか。頼みもしない、そんなお前だけれども、お前を支えて、お前に一生懸命勇気をつけて、生まれ出せた力があつたんではないか。自分の出発を支えたものに気が付かなかったら、人間じゃないよなあ」と。

それからもう一つ、「お母さんは自分の力で産んだのではない。お前は自分の力で生まれてきたのではない。お前の後ろには大きな『いのち』の流れがある。そういう『いのち』の流れが、お前一人をこの世に生まれ出すために、そして、生まれ出たお前をこの世に受け入れるために全力投球してくれたんや。だからお前はかけがえのない『いのち』なんだ。お前はかけがえのない『いのち』、そういう一人ではないか。お前はかけがえがないんだよ。」

どうですか。難しかったですか。園長先生は「何にだつて出発はあるけども、いつの間にか忘れちゃっている。しかし、そういうものは確かにあるし、人間の出発を支えてくれた、そのことに気がつかなかつたら人間ではないじゃないか」と言われました。

子どもたちと聞く法話



住職はこのお話をずっと忘れられずに覚えています。なぜ忘れられないのか。それは、このお話は養護施設の子どものお話だけれども、住職自身のことでもあるなつて思つたからです。自分のこと。だから忘れられないんじゃないかなつて。そうすると、このお話はみんなのことでもあるよね。

私は一人で生まれてくることはできません。お父さんお母さんがいて、おじいちゃんおばあちゃんがいて、家族以外でも医者さんがいて、病院を作つてくれた大工さんがいて。言い出したらきりが無い程、たくさんの方が私に関わつてくれて、はじめて私一人が生まれてきます。その関わりを先生は『いのち』と言つてくれます。

そして、その『いのち』にあることを願われて、私たちは生まれてきたんだと住職は思うのです。何を願つてくれているのでしょうか？それは「生まれてきてよかった」と生きる喜びを感じてほしい、と願つてくれているのだと思います。

みんな一人ひとりかけがえのない

『いのち』。そして、その『いのち』が全力投球してくれて、さらに生きる喜びを感じてほしいと願つてくれて、私は生まれてきたというところを、どうか今日は感じてもらいたく、お話をさせてもらいました。

蓮ちゃん通信 その②

2020年4月1日(水)～4日(土)

春の法要「子ども参拝案内所」・
「おてらおやつクラブ in 東本願寺」を実施します!

ご家族で春の法要にお参りいただき、テントでお子さまと一緒に参拝記念の缶バッジをつくってみませんか？ また、「おてらおやつクラブ in 東本願寺」も実施します。みなさまからの「おそ

なえ」をお預かりし、特定非営利活動法人「おてらおやつクラブ」事務局を通して、子どもたちに「おすそわけ」し、子どもやひとり親家族を支援する各地域の団体にお送ります。

対象

お米、お菓子、乾麺、レトルトパック、飲料、缶詰、調味料等の食品類または洗剤等の生活用品
※食品類については賞味期限が2020年5月15日以降のものをお願いします



おてら
おやつ
クラブ



春休みおすすめ！ 子どもと楽しむ紙芝居

ひとりからはじめる
イベントレシピ



紙芝居「おしゃかさま」

①『おたんじょう』

脚本・絵 諸橋精光（鈴木出版）

おしゃかさまのおたんじょうのものがたり。

おしえ

全4巻
シリーズ

②『四つの門』

③『おさとり』

④『ねはん』

も合わせてどうぞ

おはなし



紙芝居

『こねこのしろちゃん』

脚本 堀尾青史 / 絵 和歌山静子（童心社）

くろねこのきょうだいの中で、しろちゃんだけがまっしろ。
しろちゃんは、くろくなりたくてなりたくて…
でも、しろちゃんはしろちゃん。
「わたし」の尊さを子どもたちと味わってみませんか。



紙芝居

『ごろん』

脚本・絵 ひろかわさえこ / 監修 三石知佐子（童心社）

ねずみさんが「ごろん」、うさぎさんも「ごろん」
子どもたちも一緒に「ごろん」?!
のびのびと体をうごかして
みんなで「ごろん」してみよう!



野外で
読んでみても
いいですね

あそび

↑ 上記紙芝居は、しんらん交流館絵本コーナーで貸し出しています ↑

紙芝居演出のポイント



紙芝居舞台を使ってみよう!

さあさあ、何がはじまるのかな?とワクワクドキドキ!
子どもたちの視線が一気に集まります。



お芝居してみよう!

読んで字のごとく紙芝居は絵による「お芝居」。
キャラクターごとに声色を変えたり、
読むスピード、紙を引くタイミングに変化をつけたり、
みなさん独自の演出方法で
子どもたちと楽しんでみましょう。



おすすめ 紙芝居舞台（童心社製）

市販されているほとんどの紙芝居が
ちょうど入るサイズです。

「ひとりから」はじめる仏事

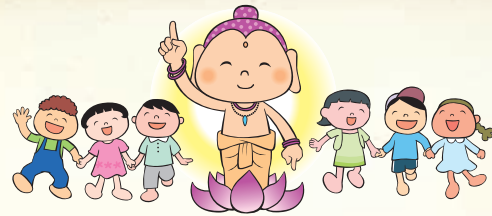
子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

花まつり おしゃか様のお誕生

おしゃか様は、今から約2500年前ヒマラヤの麓^{ふもと}のネパールにあるルンビニーの花園で、4月8日に誕生されました。おしゃか様の誕生は、お母さまのマーヤさまが白い象の夢をみられたことからはじまります。ご出産で立ち寄られたルンビニーの花園^{むゆじゆ}で、無憂樹^{かお}(アソカ)の薫り高い美しい花を愛でておられた時、おしゃか様が誕生されました。あまりの喜びに、龍王さまが甘露^{りゅうおう}の雨を降らせ、その甘露の雨を産湯^{かんる}につか



われしました。おしゃか様は、お生まれになり七歩^{てんじょうてんげゆいがどくそん}歩かれて「天上天下唯我独尊」といわれたと伝えられています。

4月8日を花まつりとしてお誕生をお祝いします。そこでは、白い象をひき、「花御堂」のおしゃか様に甘茶をそそぎます。

出典：幡谷淳信「お釈迦さまの御出世」
『児童と宗教』5巻3号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さ が え な つ ふ み
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

おしゃか様のお誕生をお祝いする「花まつり」についてお話ししましょう。白い象のエピソードや、花々で荘厳^{しょうこん}した「花御堂」、甘茶をおしゃか様の童子像にそそぐ意味を知ると、身近に感じることができるかもしれないね。

コーナーの活用例

- ④ 本文(花まつり・おしゃか様のお誕生)をそのまま覚えて話す。または、ご自身の表現で話す。
 - ④ プリントして配布し、朗読する。
- 上記以外にもその場に合わせてご利用ください!

本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎ 私たちは日々、誰かと何かを比較し、分別しています。子どもたちも、そんな私たち大人の比較の目にさらされています。花まつりは、子どもも大人も一緒にあって「誰とも比べる必要のない、尊い私」にであう日です。あなたの誕生日と同じくらい大事な日なんだよ、と私なりに伝えていきたいです。

(編集長 池崎方子)

◎ 伝える、伝わるって難しいことだなと感じます。特に小さい子は機嫌が悪いと伝える以前に何も受けつけてくれない。信頼関係がないと聞いてもくれない。話に領いてくれると嬉しくて伝わった気になります。でも本当は言葉すら耳に入っていない時も。伝わるってやっぱりことなんだしゅっね。

(青少年センター主幹 藤間哲祐)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oym.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

● 真宗大谷派(東本願寺) 青少年センター TEL.075-354-3440

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!